

# 道徳通信

## ～「小さな出来事」～

愛西市立八開中学校

道徳通信

令和3年11月19日

～道徳「誰に対しても公平に接するためには、どんな考えが必要だろう？」を通して考えました～

1917年 第一次世界大戦がヨーロッパで起こっています。中国は戦争で負けたり、他国の戦争に巻き込まれたりと厳しい状況でした。中国人でも、役人などの一部は裕福な生活ですが、多くの人々は質素で貧しい生活でした。「身分の差」がはっきりとある時代の話です。

「私」はおそらく国家の要職に就く社会的地位の高い男です。田舎から北京に出て出世を重ねるうちに尊大で横柄な態度が身に付いてしまったと語っています。ある日、「私」が急ぎの用事で人力車に乗ります。車夫がスピードをあげた時突然、老婆が人力車のかじ棒にひっかかったように倒れ込んでしまいます。わざと当たってきたと考えた「私」は「なんともないよ。やってくれ。」と先を急がせます。しかし、車夫は人力車を止め、疑わしい老婆を助け起こし派出所に連れて行くのでした。その時、「私」はほこりまみれの車夫の後ろ姿が急に大きくなったように感じたのです・・・。

私に恥を教え、私に奮起を促し、しかも勇気と希望を与えてくれた「小さな出来事」。「私」の心情の変化について、Jamboardを使って話し合い、学習テーマに迫りました。

●● ●●くん

今回の授業で、僕は当たり屋だったから助けないという意見だったけど、車夫は身分など関係なしに、助けているのを見てすごいと思った。相手を見下さないことが大切だと思います。

●● ●●くん

誰にでも完全に平等は難しいかもしれないけど思いやりの心や尊敬の心を持って、普段から接することでいざというときにそれが癖になってるから何も考えなくてもできるようになると思う。身分などを決めつけず平等に接すること、「かもしれない」で動くことを大切にしていきたい。

●● ●●さん

最初は老婆が倒れて車夫が助けることに関して背中が大きく見えたのは、ただ罪悪感からかと思っていたがたくさんの気持ちや意見が出て考えが変わった。平等と公平は違うことがわかった。身分の差関係なく、誰でも同じ対応をすることを大切にしていきたい。

●● ●●さん

公平な行動はできないという意見が出て、自分も少し共感する部分があった。知らないうちに公平に接することができてなかったことに気付かされた。これからは、公平な接し方ができるように、差別することなく、人と接したいと思った。

●● ●●さん

無理に公平にしなくても、大切な人は優遇しても別にいいのではないかなと思う。公平にするためには多くのお金や労力がかかる場合があるから。けど、身分に関しての不公平は最低限になくしたい。上下関係と公平の違いについてまたよく考えてみたいかなと思う。また、相手に優遇されずに公平に扱われることに慣れる必要もあると思う。

●● ●●さん

(今は公平に接することが)できないと思う。自分が生きてきた環境で判断してしまうから。公平な世界は同じ個数を上げるものだけではないと知った。

●● ●●くん

みんな公平にすることが大切だけど、どこかできない部分があるのは仕方ない。でも、できるだけ公平を大切にしたい。差別せずに「みんな同じ人間」と思えば、公平にされなかった人の気持ちを考えることができると思う。